

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																
東京呉竹医療専門学校	昭和51年9月10日	村上 哲二	〒 160-0008 (住所) 東京都新宿区四谷三栄町16番12号 (電話) 03-3341-4043																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																
学校法人 呉竹学園	昭和31年10月17日	理事長 坂本 歩	〒 160-0008 (住所) 東京都新宿区四谷三栄町16番12号 (電話) 03-3341-4043																
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士															
医療	医療専門課程	鍼灸科 I 部	文部省告示第7号	-															
学科の目的	はり師及びきゅう師を養成するにあたり、高度の専門知識及び技術を授け、国民の保健衛生の増進に寄与するとともに、広く社会に貢献する有為の人材を育成することを目的とする。																		
認定年月日	平成26年3月31日																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技												
3	昼間	2670単位時間	1914単位時間	0単位時間	180単位時間	0単位時間	576単位時間												
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数														
90人	80人	1人	19人	26人	45人														
学期制度	■1学期:4月1日～7月31日 ■2学期:8月1日～11月31日 ■3学期:12月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: 100点満点換算で60点以上を合格とする。 評価の方法: 100点満点換算で60点以上を合格とする。														
長期休み	■学年始:- ■夏季:8月10日～8月25日 ■冬季:12月25日～1月5日 ■学年末:3月25日～3月31日			卒業・進級条件	進級及び卒業の認定は、学業成績及び単位の修得並びに出欠状況等により教務会の議を経て校長が決定する。														
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 クラス担任制をとり、個別に学生の学業・生活等の相談を受けている。各科目の延べ欠席率が年間予定講義数の一定数に達した者には、段階に応じた注意を行っている。また、成績不良科目(60点未満)に対しては、再試験や補習を行い成績の向上を図っている。			課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 呉竹医学会学術大会・体育大会・学園祭・東洋療法学校協会学術大会														
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和5年度卒業生) 治療院、出張開業等 ■就職指導内容 クラス担任制をとり、個別に学生の就職相談を受けている。また、求人検索システムにて、求人情報を閲覧できるようにしている。年に複数回、企業を招聘し就職相談会を開催している。 ■卒業生数 14 人 ■就職希望者数 11 人 ■就職者数 10 人 ■就職率 90.9 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 71.4 % ■その他 進学者数:3名 (令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>はり師</td> <td>②</td> <td>14</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>きゅう師</td> <td>②</td> <td>14</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	はり師	②	14	13	きゅう師	②	14	13
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
はり師	②	14	13																
きゅう師	②	14	13																
中途退学の現状	■中途退学者 2名 ■中退率 2.6 % 令和5年4月1日時点において、在学者77名(令和5年4月1日入学者を含む) 令和6年3月31日時点において、在学者75名(令和6年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 病気・体調不良、学業不振等			■中退防止・中退者支援のための取組 退学については、月報にて要因および傾向をクラス毎に把握し、担任による面談や個別補習等を実施している。成績不良が中途退学の要因となることが多いため、入学前に行う入学前授業を通じて学習方法を指導し、入学後の成績不良者には補習、課題および個別指導を行っている。															
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度(前年度の学業成績および学術研究の評価により特に優秀で他の在校生の模範となる学生を対象とし進級年度の授業料の一部を免除)・学内進学奨学金制度・卒業生奨学金制度・授業料一部奨学金制度・経済的困窮者に対する学費減免制度(在学中に家計支持者が規程要件に該当し、審査の結果学費の減免が必要と認められた場合、授業料の一部を免除)・校友会推薦奨学金制度(本学園の卒業生である校友会会員より推薦され入学した方に、入学金の一部を入学後に付与)			■専門実践教育訓練給付: 有 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 23名															
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL																		
当該学科のホームページURL	https://www.kuretake.ac.jp/department/shinkyu																		

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

専攻分野(医療)に関する業界のニーズ、人材の動向および最新の専門知識・技術等の把握を目的として施術所、医療機関、介護福祉施設、職能団体および学術団体等の役職者および有識者で構成される教育課程編成委員会を設置し、その見識および専門性を吸収して実践的かつ専門的な職業教育を推進するため、企業等と連携して教育課程の編成、授業科目の開発、授業内容の改善・工夫・評価等を行うことを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

「教育課程編成委員会実施要項」に規定されているとおり、教育課程編成委員会は学科毎に校長が年2回以上開催する。教育課程編成委員は、職業実践専門課程の趣旨に基づき、専攻分野の知見を有する関係業界団体の役職者、関係施設の役職者および学内教職員の役職者、責任者(実習担当者およびカリキュラム担当者)等で構成され、教育方針、社会ニーズ、知識・技術の到達レベル等について意見交換を行う。その過程で得られた内容を「教育課程編成規則」に定める作業部会において審議し、校長の承認を経て次年度の教育課程編成及び授業実施計画に反映する。なお、実施状況や成果等については委員会にて科長が実施経過を報告する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
小林 潤一郎	公益社団法人 東京都鍼灸師会 会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日	①
瀧澤 一裕	公益社団法人 東京都柔道整復師会 会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日	①
石川 英樹	全日本鍼灸マッサージ師会 副会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日	①
澤登 拓	株式会社フレアス 代表取締役社長	令和6年4月1日～令和7年3月31日	③
猪野 幸峰	La PAZ 鍼灸院 代表	令和6年4月1日～令和7年3月31日	③
今井 賢治	帝京平成大学 ヒューマンケア学部 鍼灸学科 教授	令和6年4月1日～令和7年3月31日	②
友枝 郁也	亀山整骨院 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日	③
甲野 功	あじさい鍼灸マッサージ治療院 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日	③
大饗 将司	acu.place自由が丘治療院 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日	②
村上 哲二	東京医療専門学校 校長		
建石 泰三	東京医療専門学校 事務長		
中村 真通	東京医療専門学校 鍼灸マッサージ科/鍼灸科 科長		
杉山 直人	東京医療専門学校 柔道整復科 科長・実技担当		
小川 裕雄	東京医療専門学校 鍼灸マッサージ教員養成科 科長		
畠山 博式	東京医療専門学校 鍼灸マッサージ科/鍼灸科 科長補佐		
藤田 洋輔	東京医療専門学校 鍼灸マッサージ科/鍼灸科 科長補佐		
早川 幸秀	東京医療専門学校 柔道整復科 科長補佐		

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年8月27日(日) 14:00~16:00(予定)

第2回 令和7年1月21日(日) 14:00~16:00(予定)

(令和5年度の開催実績:令和5年8月29日(日)、令和6年1月30日(日))

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

1. 実技・実習における対面形式、オンライン形式およびオンデマンド形式を活用したハイブリッド教育を促進する。
2. オンライン形式およびオンデマンド形式の授業について、質向上についての検討を行なう。
3. 外部臨床実習の日程案について、可能な限り早期に実習先と調整を行う。
4. 外部臨床実習の学生フォローアップとして、担当教員は臨床実習期間中に対面にて意見交換を行う。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等との連携は、企業等の持つ専門性・技術・経験等を活用し、より実践的な教育効果を得るために行い、関連する業界等の社会のニーズを捉え、卒前教育として基礎的な知識を得ることを目的として行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実技実習の講師には、企業等で活躍する現場の施術者で教員資格を有する者を招聘している。当該講師が施術に関する実践的な授業を行うとともに、学期毎に試験および評価を行いその学修成果を把握している。また、大学における解剖見学実習など授業時間外の実習を実施し、医学知識の更なる理解を目指している。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
はりきゅう基礎実技Ⅰ	はり師・きゅう師が医療人である事を自覚することで、衛生観念などを始め身なりや言葉遣いなどを意識させるとともに、鍼施術時の注意事項や過誤・副作用などその対処法などを学習する。実技として、前期までは鍼実技を中心に鍼道具の取り扱いや消毒法なども含めた鍼の基本実技・動作を理解、実践できるような学習を行い、後期からは身体部位の代表的な経穴に対して、基本的な鍼灸施術動作を行えることを目的に行う。	岩元鍼灸院 接骨院
はりきゅう基礎実技Ⅱ	はり師・きゅう師が医療人である事を自覚することで、衛生観念などを始め身なりや言葉遣いなどを意識させるとともに、灸施術時の注意事項や過誤・副作用などその対処法などを学習する。実技として、前期までは灸実技を中心に灸道具の取り扱いや消毒法なども含めた灸の基本実技・動作を理解、実践できるような学習を行い、後期からは身体部位の代表的な経穴に対して、基本的な灸施術を中心とした鍼灸施術動作を行えることを目的に行う。	宮原鍼療所

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 本校では、学校法人呉竹学園研修規程に基づき、教職員の専門性向上および人材育成を目的として計画的に研修を受講させ、同時に自己啓発により自ら学ぶことを奨励する。また、教職員に対して恒常的に関連分野の先端知識に触れる場を提供することによって資質の向上を図り、ひいては教育目標の実現に努める。なお、本校は研修および自己研鑽による教職員のスキルアップを評価し、考課を行う。	
(2) 研修等の実績	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: 全日本鍼灸学会学術大会	連携企業等: (公社)全日本鍼灸学会
期間: 令和5年6月9日～11日	対象: 専任教員
内容: 医療機関、大学、関係団体等に所属する著名な有識者による講演やパネルディスカッション等を通して、鍼灸医学に関する知見を深める。	
研修名: 呉竹医学会学術大会	連携企業等: 医療機関・大学・施術所等
期間: 令和5年9月30日	対象: 専任教員
内容: 医療機関、大学、施術所等の関連施設で勤務する著名な臨床家や研究者を講師として招聘し、専攻分野を含む医学全般に渡って最新の知見を獲得する。	
研修名: 東洋療法学校協会学術大会	連携企業等: (公社)東洋療法学校協会
期間: 令和5年10月13日	対象: 専任教員
内容: 東洋医学の発展と向上を図るとともに、専攻分野の学術の振興に資するため、特別講演、教育講演、ポスター発表、口頭発表等を通じて専攻分野の知見を深める。	
研修名: 卒後臨床講習会	連携企業等: 医療機関・施術所等
期間: 通年※新型コロナウイルス感染症により中止	対象: 専任教員
内容: 臨床で活躍する施術者を講師として招聘し、実践的・専門的な知識・技術を修得することで、臨床力の向上を図る。	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 東洋療法学校協会教員研修会	連携企業等: (公社)東洋療法学校協会
期間: 令和5年8月24日～25日	対象: 専任教員
内容: あん摩マッサージ指圧・はり・きゅうの教育における教員の教授力向上、教育方法・学生指導方法の改善及び教員の資質向上等を図る。	
(3) 研修等の計画	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: 全日本鍼灸学会学術大会	連携企業等: (公社)全日本鍼灸学会
期間: 令和6年5月25日～26日	対象: 専任教員
内容: 医療機関、大学、関係団体等に所属する著名な有識者による講演やパネルディスカッション等を通して、鍼灸医学に関する知見を深める。	
研修名: 呉竹医学会学術大会	連携企業等: 医療機関・大学・施術所等
期間: 令和6年9月28日	対象: 専任教員
内容: 医療機関、大学、施術所等の関連施設で勤務する著名な臨床家や研究者を講師として招聘し、専攻分野を含む医学全般に渡って最新の知見を獲得する。	
研修名: 東洋療法学校協会学術大会	連携企業等: (公社)東洋療法学校協会
期間: 令和6年10月10日	対象: 専任教員
内容: 東洋医学の発展と向上を図るとともに、専攻分野の学術の振興に資するため、特別講演、教育講演、ポスター発表、口頭発表等を通じて専攻分野の知見を深める。	
研修名: 卒後臨床講習会	連携企業等: 医療機関・施術所等
期間: 通年	対象: 専任教員
内容: 臨床で活躍する施術者を講師として招聘し、実践的・専門的な知識・技術を修得することで、臨床力の向上を図る。	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 東洋療法学校協会教員研修会	連携企業等: (公社)東洋療法学校協会
期間: 令和6年8月8日～9日	対象: 専任教員
内容: あん摩マッサージ指圧・はり・きゅうの教育における教員の教授力向上、教育方法・学生指導方法の改善及び教員の資質向上等を図る。	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、学校が自ら行った自己点検・自己評価の精度の向上と学校運営における連携・協力の促進を図ることを目的として行う。学校は毎年学校関係者評価を行い、自己評価と共に公表する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	①理念・目的・育成人材像は定められているか②学校における職業教育の特色は何か③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか④理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているかどうか⑤各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか
(2) 学校運営	①目的等に沿った運営方針が策定されているか②運営方針に沿った事業計画が策定されているか③運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか④人事、給与に関する制度は整備されているか⑤教務、財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか⑥業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制は整備されているか⑦情報システム化による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	①教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか④実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか⑤関連分野の企業・関連施設等、業界団体等のニーズを踏まえた教育活動がされているか⑥関連分野における実践的な職業教育(医療機関との連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか⑦授業評価の実施・評価体制はあるか⑧学生の研究に対する支援体制はあるか⑨職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか⑩成績評価・単位認定の基準は明確になっているか⑪資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか⑫人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか⑬関連分野における業界との連携において優れた教員(本務・業務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか⑭関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組みが行われているか⑮職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4) 学修成果	①就職率の向上が図られているか②資格取得率の向上が図られているか③退学率の低減が図られているか④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5) 学生支援	①進路・就職に関する支援体制は整備されているか②学生相談に関する体制は整備されているか③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか④学生の健康管理を担う組織体制はあるか⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか⑥学生の生活環境への支援は行われているか⑦保護者と適切に連携しているか⑧卒業生への支援体制はあるか⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか⑩高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか⑪国家試験不合格者に対する支援体制はあるか
(6) 教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか③防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行われているか②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか③学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか③財務について会計監査が適正に行われているか④財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか③自己評価の実施と問題点の改善に努めているか④自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか②生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか③地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等)の受託等を積極的に実施しているか④地域との連携・交流をしているか
(11) 国際交流	該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

東洋医学を学びたいが卒業後の将来が見えないため進学を諦めている社会人が一定数あるとの意見があり、社会人のキャリアチェンジおよびキャリアアップに特化したパンフレットを作成し、また本校を卒業して1年から3年の方を取り上げた雑誌を刊行した。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
岩元 健朗	岩元鍼灸院接骨院 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日	企業等委員 (鍼灸業界)
大竹 健一	株式会社ケッツトレーナー 代表取締役	令和6年4月1日～令和7年3月31日	企業等委員 (鍼灸業界)
石川 慎太郎	東京有明医療大学 保健医療学部鍼灸学科 准教授	令和6年4月1日～令和7年3月31日	大学教員
吉崎 正恒	東京都立東大和高等学校 講師	令和6年4月1日～令和7年3月31日	高校教諭
西沢 正樹	江戸川橋はりきゅう整骨院 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日	企業等委員 (柔道整復業界)
星野 博子	株式会社キノワ 代表取締役	令和6年4月1日～令和7年3月31日	卒業生
深澤 栄一	小淵沢治療室 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日	在校生保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ

URL: <https://www.kuretake.ac.jp/about/evaluation>

公表時期: 令和6年10月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校関係者評価は、学校が自ら行った自己点検・自己評価の精度の向上と学校運営における連携・協力の促進を図ることを目的として行う。学校は毎年学校関係者評価を行い、自己評価と共に公表する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、設置目的、教育理念、運営方針、校長名、所在地、連絡先、沿革等
(2) 各学科等の教育	各科の概要(定員・修業年限等)、カリキュラム、シラバス、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー、取得資格率、卒業生数、就職率等
(3) 教職員	教職員数、教員プロフィール等
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育の取組及び実施報告、就職支援等
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動等
(6) 学生の生活支援	指定学生寮、健康管理、学生相談等
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金、奨学金・教育ローン、学校独自の奨学金、経済的支援措置等
(8) 学校の財務	事業報告書、資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、監査報告書
(9) 学校評価	自己点検自己評価および学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	上海中医薬大学学術交流
(11) その他	職業実践専門課程の基本情報

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ

URL: <https://www.kuretake.ac.jp/about/evaluation>

公表時期: 令和6年10月31日

授業科目等の概要

(医療専門課程 鍼灸科 I 部) 令和6年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		総合基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	<p>[授業概要]理論的思考力を育て、豊かな人間性を養い、さらに医の倫理や人の尊厳などについての現代人としての教養を高める。</p> <p>[一般目標(GIO)] 科目ごとに設定する。(英語異文化コミュニケーション・中国語・実践国語・健康科学・人体の科学・コミュニケーションA・コミュニケーションB)</p> <p>[到達目標(SBOs)] 科目ごとに設定する。(英語異文化コミュニケーション・中国語・実践国語・健康科学・人体の科学・コミュニケーションA・コミュニケーションB)</p>	1・2・3	210	14	○			○			○	
2	○		構造機能学Ⅰ-1	<p>[授業概要]・個体の生命を維持するために必要な、人体の構造と機能の基本知識を習得する。</p> <p>[一般目標(GIO)]・個体の生命を維持するための器官の構造と働きを理解する。</p> <p>[到達目標(SBOs)]・循環器(脈管)の構造と機能を説明できる。・呼吸器について構造と機能を説明できる。・消化器の構造と機能について説明できる。</p>	1	48	2	○			○		○		
3	○		構造機能学Ⅰ-2	<p>[授業概要]・正常な人体の構造(解剖学)と機能(生理学)の概要について、1年次に学んだことをさらに発展させて講義を行う。</p> <p>[一般目標(GIO)]・1年次に学んだ循環器と、感覚器の構造と機能が、どのように疾患と結びつくか理解する。</p> <p>[到達目標(SBOs)]・循環器における代表的な疾患について、その成り立ちと主要症候を説明することができる。・感覚器について特徴的な構造と機能を説明できる。</p>	2	24	1	○			○			○	
4	○		構造機能学Ⅰ-3	<p>[授業概要] ・1年次、2年次に学んだ正常な人体の構造と機能を基に、鍼灸臨床に活かせる解剖学・生理学を統合して学習する。</p> <p>[一般目標(GIO)] ・解剖学総論・内臓系・内分泌系・脈管系の正常構造について復習する。</p> <p>[到達目標(SBOs)] ・人体を構成する細胞と組織の分類ができる。・循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿生殖器系の説明ができる。</p>	3	24	1	○			○			○	
5	○		構造機能学Ⅱ-1	<p>[授業概要] ・身体を構成する運動器の基礎的な構造と機能を習得すると共に運動に関わる神経との関連を理解できる様にする。</p> <p>[一般目標(GIO)] ・人体を構成している骨格、筋肉についての基本構造や役割について理解することにより、運動器の症状に対し、障害されている筋・関節を推測できる様にする。</p> <p>[到達目標(SBOs)] ・全身の基本骨格の名称を述べるができる。・関節の形態と運動の仕組みを理解できる。・骨格筋の構造を理解できる。・主要関節の構造及び運動を説明できる。</p>	1	72	3	○			○			○	

13	○	臨床医学Ⅳ	<p>[授業概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神経痛・機能的疾患、一般外科、麻酔科、婦人科疾患、皮膚科疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患、精神科疾患、心療内科および小児科疾患について、各々病態、疫学、診断および治療を概説する。 <p>[一般目標(GIO)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神経痛・機能的疾患、一般外科、麻酔科、婦人科疾患、皮膚科疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患、精神科疾患、心療内科および小児科疾患について、各々病態、疫学、診断および治療を説明できる。 <p>[到達目標(SBOs)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・末梢神経疾患、および頭痛の分類について説明できる。 ・損傷概論、ショック、救急処置、心肺蘇生について説明できる。 ・麻酔について説明できる。 ・婦人科疾患、皮膚疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患について具体的に説明できる。 ・神経症、心身症などについて説明できる。 	2	24	1	○				○							
14	○	臨床医学Ⅴ	<p>[授業概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床の際に必要な代表的疾病について基本的な理解を促すとともに、それまでの学習内容を振り返り発展と応用に結びつける。 <p>新たな学習範囲としては、末梢神経疾患、神経痛、頭痛、小児科疾患、一般外科、麻酔科の概要、婦人科疾患、皮膚科疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患、精神科・心療内科疾患および老年医学の概要について解説する。</p> <p>[一般目標(GIO)]</p> <p>小児科領域における代表的な疾患、末梢神経疾患、神経痛、頭痛、一般外科(外傷・熱傷・出血・ショックおよび救急時の処置)、麻酔の目的と種類、婦人科領域における代表的な疾患、皮膚科・眼科および耳鼻科領域における代表的な疾患、精神科・心療内科で扱う代表的な疾患について、各々病気の概要(成り立ち、症状および治療)を理解させる。</p> <p>[到達目標(SBOs)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・末梢神経疾患、および頭痛の分類について説明できる。 ・損傷概論、ショック、救急処置、心肺蘇生について説明できる。 ・麻酔について説明できる。 ・婦人科疾患、皮膚疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患について具体的に説明できる。 ・神経症、心身症などについて説明できる。 ・老年期の身体・心理特性、症候、および予防について説明できる。 ・小児疾患の概略を理解し説明することができる。 	3	72	3	○				○			○				
15	○	病理学	<p>[授業概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾病の成り立ちを、細胞・組織レベルで理解する。 <p>[一般目標(GIO)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾病の原因と、それにとまなう細胞・組織の変化に関する知識を習得する。 <p>[到達目標(SBOs)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾病の概念を説明できる。 ・疾病の内因と外因について、具体例を挙げることができる。 ・退行性病変について分類し、それぞれ細胞・組織の状態を具体的に説明できる。 ・循環障害の分類と、具体的な症状を挙げることができる。 ・進行性病変について分類し、それぞれ細胞・組織の状態を具体的に説明できる。 ・炎症の機序を説明できる。 ・免疫の機構とアレルギーについて説明できる。 ・腫瘍形成の仕組みと、腫瘍の具体例を挙げることができる。 ・代表的な遺伝性の疾患について機序を説明できる。 ・先天性異常について例を挙げることができる。 	2	48	2	○				○							

18	○			保健医療福祉学	<p>[授業概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はり師、きゅう師に必要な倫理と心構えを養い、現代のはき師を取り巻く環境と将来像について概観し、専門職上の責任を全うできる鍼灸師を育成する。また、公衆衛生の基本となる考え方を学ぶ。 <p>[一般目標(GIO)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わが国の社会保障制度と予防医学の重要性を理解し、自身の行動を律するための基準や規範を示す職業倫理を身につけることにより、はき施術を通して社会貢献できるようにする。 <p>[到達目標(SBOs)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会保障(保健・医療・福祉・介護)制度の概要を理解し、国民の健康増進との関連を考察できる。 ・人を対象とした疾病の予防・健康増進について理解し、説明できる。 ・集団の健康健康状態の把握に必要な指標を読み取ることができる。 ・個人情報利用目的を説明し、職務上で知り得た個人情報について、守秘義務・個人情報の保護に努めることができる。 ・自己の能力や患者に対する責任を認識した上で、はきの実践を行うことができる。 ・はきが関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。 ・社会のニーズに対応できるはき技術の修得に積極的に携わるとともに、専門職能団体などの組織が行う活動を通して、よりよい社会づくりに寄与することができる。 	1	72	3	○			○				
19	○			東洋医学概論-1	<p>[授業概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学習の骨組みとなる東洋医学の意義を理解し東洋医学の生理・病理の特徴やシステムについて理解する。 ・疾病の原因やその症状を考察し臨床に使用できる能力を身につける。 ・2年次に行う臨床科目と結びつくように陰陽五行学説から蔵象学、病因病機を主体に展開していく。 <p>[一般目標(GIO)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東洋医学における哲学的理解をするとともに基礎概念である気血津液、陰陽五行などを理解するとともに、病因病機の機序を理解し説明することができる。 <p>[到達目標(SBOs)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東洋医学の歴史を理解し説明ができる。 ・日本の伝統医学と中医学の違いを理解し説明できる。 ・東洋医学の基礎となる陰陽論、五行説を理解し説明できる。 ・気血津液、蔵象の生理・病理・病証を理解し説明できる。 ・代表的な疾病について概要を理解し説明できる。 	1	72	3	○			○				

26	○		東洋医学の応用-2	<p>[授業概要] 1年次、2年次に学んだ解剖学、生理学、はき理論の知識を、臨床施術に応用できる力を身につける。また、患者に対する的確な説明ができる知識を習得する。</p> <p>[一般目標(GIO)] ・はき治療について基本的知識を確認する。 ・はき治療に関連する治効理論を理解する。 ・はき治療に必要な、症候からの臨床応用への道筋を理解する。</p> <p>[到達目標(SBOs)] ・はき治療に関する道具や手技の説明ができる。 ・感染症対策およびリスク管理とその対策を説明できる。 ・治効理論として、感覚の伝導路、発痛、炎症、鎮痛、ゲートコントロールについて説明できる。 ・関連学説を説明できる。 ・臨床に必要な診察法全般について説明できる。</p>	3	72	3	○			○			○
27	○		東洋医学臨床論Ⅰ	<p>[授業概要] ・患者の症状から、はき治療の適応か否かを判断する能力を養う。・はき施術の治効理論を学習したことをふまえ、患者にとってより良い治療を選択、提案できる能力を身につける。</p> <p>[一般目標(GIO)] ・症候に対し、疾患を想定し、はき治療の適応の判断の根拠を理解する。・はき治療の適・不適の判断後の対処について習得する。</p> <p>[到達目標(SBOs)] ・適・不適の判断をするにあたり、「絶対禁忌」、「相対禁忌」、「禁忌ではない」、「効果がある」に分類することができる。・頸肩四肢の症状に対して、はき治療の適・不適が説明できる。・腰背臀部の症状について、はき治療の適・不適が説明できる。・はき治療が不適応の場合の対処法を理解している。・はき治療適応の場合、適切に治療計画を立てることができる。</p>	2	48	2	○			○			
28	○		東洋医学臨床論Ⅱ	<p>[授業概要] 専門基礎分野で学んだ知識を基に、疾患の成り立ちについて自ら考える力を養う。はき治療において遭遇する可能性の高い疾患の、発症機序を明らかにする。現代医学、東洋医学両方向からの治療プランを組み立てる力を養う。</p> <p>[一般目標(GIO)] はき治療で遭遇する頻度の高い疾患について、発症機序、鑑別のための理学検査の意義を理解する。グループ討論、調べ学習など、自ら行動することで、考える力を身につける。</p> <p>[到達目標(SBOs)] ・患者の主訴に対し、はきの適応の判断ができる。・患者の症例(頭痛、便通異常、顔面麻痺、めまい・耳鳴り・難聴)を基に、想定される疾患を挙げることができる。・想定される疾患の病態生理を説明することができる。・想定した疾患と患者の状態で合う点と合わない点を討論できる。・関連する理学検査の意義を説明することができる。・現代医学的な考え方による治療方針を、患者にわかりやすい言葉で説明することができる。・東洋医学的な考え方による治療方針を組み立てることができる。・治療方針に即した治療穴を選穴できる。</p>	2	48	2	○			○			○

29	○		東洋医学臨床論Ⅲ	<p>[授業概要] 鍼灸臨床において頻繁に遭遇する主要症候について、現代医学的に病態把握し、鍼灸適不適の鑑別が出来る知識を習得する。その上で、現代医学・東洋医学それぞれの考えに基づき病態把握・治療方針・具体的な治療方法を理解し、説明出来ることを目標とした授業を行う。</p> <p>[一般目標(GIO)] ・臨床における主要症候に対して病態把握や適不適の判断ができる知識を習得する。 ・臨床における現代医学・東洋医学それぞれの考えに基づき病態把握や治療方針や具体的な治療方法を理解し、説明が出来る。</p> <p>[到達目標(SBOs)] ・乳児、小児に特徴的な症状と施術について説明できる。 ・高齢者に多くみられる症状と疾患を挙げることができる。 ・不定愁訴に対して治療方針を立てることができる。</p>	3	72	3	○			○			○						
30	○		診療の組み立て	<p>[授業概要] ・鍼灸治療に必要な運動学と、鍼灸の適・不適の判断の基準となる検査の機序を理解する。</p> <p>[一般目標(GIO)] ・他覚的所見を収集することの意義と、各種検査の機序を理解する。</p> <p>[到達目標(SBOs)] ・脊髄症鑑別のための理学検査とその意義を説明できる。・神経根症状鑑別のための理学検査とその意義を説明できる。・神経の絞扼障害鑑別のための理学検査とその意義を説明できる。・その他運動器疾患の鑑別のための検査とその意義を説明できる。</p>	2	24	1	○			○			○						
31	○		社会はき学	<p>[授業概要] ・はき法を学び、医療従事者として活動していく上での職務を理解する。また、医療における倫理の重要性について学び、医療の担い手が守るべき倫理規範を身につける。鍼灸師として、社会との関わりや社会貢献、ライフステージで起こる疾病との関わりなどを学ぶ。</p> <p>[一般目標(GIO)] ・医療関係法規に抵触しないよう、注意事項を理解する。患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。・鍼灸師として、社会との関わり方や社会貢献活動の理解をする。・鍼灸師としてライフステージで起こる疾病との関わりを理解する。</p> <p>[到達目標(SBOs)] ・はき法の概要を説明できる。・免許申請、施術所開設の基準、違反に対する罰則を説明できる。・その他の医療・衛生関係法規の概要を説明できる。・法律上の責任を認識した上で、はきの実践を行うことができる。・医療に関わる倫理的問題について説明できる。・患者の権利を理解し、インフォームドコンセントを行うことができる。・生命倫理における様々な見解を理解できる。・鍼灸師としておこなえる社会との関わり方と社会貢献活動を思案できる。・ライフステージにおける疾病と鍼灸との関わりを理解できる。</p>	3	48	2	○			○			○						

32	○	はりきゅう基礎実技Ⅰ	<p>[授業概要] はり師・きゅう師が医療人である事を自覚することで、衛生観念などをはじめ身なりや言葉遣いなどを意識させるとともに、鍼施術時の注意事項や過誤・副作用などとその対処法などを学習する。実技として、前期までは鍼実技を中心に鍼道具の取り扱いや消毒法なども含めた鍼の基本実技・動作を理解、実践できるような学習を行う。後期からは身体部位の代表的な経穴に対して、鍼施術を中心として、基本的な鍼灸施術動作を行えることを目的に行う。また、正しく取穴ができるように体表解剖を重視しながら、取穴実技を行う。</p> <p>[一般目標(GIO)] 医療人として相応しい衛生観念、言動ができるとともに過誤や副作用を理解する。鍼の基本実技を理解し、正確に実践できることを目標とする。後期には身体各部位に於いて、鍼施術を中心として、安全に鍼灸施術が行える事を目標とすると共に、正しく取穴ができるように主要な経穴の取穴実技を行う。</p> <p>[到達目標(SBOs)] ・医療人としての衛生観念が身についている。・医療人として相応しい言葉遣い、態度が身についている。・鍼施術の注意事項や過誤・副作用を理解している。・鍼道具を正しく取り扱い、保管することができる。・鍼施術時に正しく消毒法を行う事ができる。・鍼の基本実技を理解し、正しく行う事ができる。・安全な施鍼、施灸ができる。・身体各部の代表的な経穴に適切に施鍼・施灸ができる。</p>	1	72	2			○	○				○
33	○	はりきゅう基礎実技Ⅱ	<p>[授業概要] はり師・きゅう師が医療人である事を自覚することで、衛生観念などをはじめ身なりや言葉遣いなどを意識させるとともに、灸施術時の注意事項や過誤・副作用などとその対処法などを学習する。実技として、前期までは灸実技を中心に灸道具の取り扱いや消毒法なども含めた灸の基本実技・動作を理解、実践できるような学習を行い、後期からは身体部位の代表的な経穴に対して、基本的な灸施術を中心とした鍼灸施術動作を行えることを目的に行う。</p> <p>[一般目標(GIO)] 医療人として相応しい衛生観念、言動ができるとともに過誤や副作用を理解する。灸の基本実技を理解し、正確に実践できることを目標とする。後期には身体各部位に於いて灸施術を中心として、安全に鍼灸施術が行える事を目標とする。</p> <p>[到達目標(SBOs)] ・医療人としての衛生観念が身についている。・医療人として相応しい言葉遣い、態度が身についている。・灸施術の注意事項や過誤・副作用を理解している。・灸道具を正しく取り扱つことができる。・用途に応じて、艾の種類を選択できる。・灸施術時の消毒法を正しく行う事ができる。・灸の基本実技を理解し、正しく行う事ができる。・安全な施鍼、施灸ができる。・身体各部の代表的な経穴に適切に施鍼・施灸ができる。</p>	1	72	2			○	○	○			○

34	○			はりきゅう基礎実技Ⅲ	<p>[授業概要] 鍼灸医療は体表面からアプローチすることから、体表観察が正確に行えることは大きな意味をもつ。そこで、身体診察や取穴に必要な体表解剖を理解、触知できることとともに、主要な経穴を正確に取穴できる能力を養う。また、リスク管理の意識を持ち、バイタルサインを理解し、血圧・脈拍の測定を継続的に慣れさせる。</p> <p>[一般目標(GIO)] 身体診察や取穴に必要なランドマークとなる骨や主要な筋・動脈等を理解し、触知できることで、正確な診察や取穴のできる能力を養うとともに、さらに手足要穴の解剖学的な理解を深め、正確に取穴できる能力を養う。また、バイタルサインを理解し、特に血圧と脈拍を正確に測れる能力を養う。</p> <p>[到達目標(SBOs)] ・身体各部のランドマークとなる部位(骨)を理解し、触知できる。・身体各部の主要な筋を理解し、触知できる。・身体各部の主要な動脈を理解し、触知できる。・手足要穴について理解し、正確に取穴する事ができる。・バイタルサインを理解し、特に血圧・脈拍について正しく測定できる。</p>	1	72	2			○	○		○		
35	○			はりきゅう臨床実技Ⅰ	<p>[授業概要] ・治療院勤務の経験を臨床に活かす授業を行う。・医療面接(患者接遇などを含む)の必要性や技法などについて理解するとともに、対人練習を行う事で、円滑な医療面接が行えるよう学習をする。・臨床でよく遭遇する代表的な整形外科的な疾患(肩こり、頸肩腕痛、腰痛・腰下肢痛)に対して、理解を深め、診察から施術までの一連の内容を学習する。</p> <p>[一般目標(GIO)] ・医療人として日頃から言動に気をつけ、能動時に学習に取り組む姿勢が身についている。・医療面接について理解し、適切に行えることを目的とする。・臨床でよく遭遇する肩こり・頸肩腕痛、腰痛・腰下肢痛の病態を理解するとともに、医療面接・身体診察、病態の推定を行う事ができ、それに対応した基本穴に適切に鍼灸施術を行うことができる事を目的とする。</p> <p>[到達目標(SBOs)] ・適切な医療面接(患者接遇を含む)を行うことができる。・血圧、脈拍を正しく測定することができる。・頸肩腕痛、腰下肢痛などの病態(分類、原因など)を理解し、鍼灸治療の適・不適を判断、説明することができる。・頸肩腕痛、腰下肢痛などに対して、適切に身体所見をとる事ができる。・徒手検査法の意義・陽性所見を理解し、説明できる。・各疾患の基本的な穴に対し、適切に取穴・刺鍼・施灸を行う事ができる。</p>	2	72	2			○	○		○		

36	○			はりきゅう臨床実技Ⅱ	<p>[授業概要] ・治療院勤務での経験を活かし臨床における医療面接などを行う。・臨床でよく遭遇する代表的な整形外科的な疾患のうち、肩関節痛、膝関節痛に対して診察から施術までの一連の内容を学習する。・また、臨床実習前試験の為の授業として、これまで学んだ4疾患に対してロールプレイ実習を含めた臨床実践的な内容を行う。・東洋医学的な治療を行える能力を養うことも目的に、四診法（特に舌診、腹診、脈診）について反復練習を行う。</p> <p>[一般目標(GIO)] ・医療人として日頃から言動に気をつけ、能動時に学習に取り組む姿勢が身についている。・臨床でよく遭遇する肩関節痛・膝関節痛の病態を理解するとともに、医療面接・身体診察、病態の推定を行う事ができ、それに対応した基本穴に適切に鍼灸施術を行うことができる事を目的とする。・また、四診法（特に舌診、腹診、脈診）について反復練習することで感覚を養う。</p> <p>[到達目標(SBOs)] ・肩関節痛、膝関節痛などの病態（分類、原因など）を理解し、鍼灸治療の適・不適を判断、説明することができる。・肩関節痛、膝関節痛などに対して、適切に身体所見をとる事ができる。・徒手検査法の意義・陽性所見を理解し、説明できる。・各疾患の基本的な穴に対し、適切に取穴・刺鍼・施灸を行う事ができる。・臨床実習前試験として、4疾患に対して医療面接、徒手検査法、病態の推定、取穴、刺鍼、施灸を行う事ができる。・基礎的な四診法（特に舌診、腹診、脈診）ができる。</p>	2	72	2			○	○			○		
37	○			はりきゅう臨床実技Ⅲ	<p>[授業概要] ・鍼灸治療において医療面接は重要な役割を果たすことから、理解を深め自然に実践できるように学習する。また、診療録の作成について学習した後に、臨床でよく遭遇する整形4疾患、内科系症候に対して模擬患者施術を行う事で、総合的な鍼灸治療の一連の流れを理解するとともに、診療録を作成する事で、臨床能力向上を図る。</p> <p>[一般目標(GIO)] ・整形4疾患（頸肩腕痛、腰下肢痛、膝関節痛、肩関節痛）を訴える患者に対して、適切に病態を把握し治療ができる。・内科系疾患に対して、東洋医学的な考えから適切に病態を把握し、治療ができる</p> <p>[到達目標(SBOs)] 医療面接について以下の事ができる。・医療面接の意義を述べる事ができる。・適切な対人関係（挨拶、視線、対人空間など）をとる事ができる。・適切な質問法（開かれた質問・閉ざされた質問など）を用いる事ができる。・基本的傾聴を行う事ができる。・共感的態度で接する事ができる。・主訴・および現病歴を把握する事ができる。・既往歴、社会歴、家族歴を聴取する事ができる。・受療行動を聴取する事ができる。・腰下肢痛、頸肩腕痛、膝痛、肩痛について、模擬患者施術を行うために以下の事ができる。・鑑別診断するために必要な情報を適切に聴取できる。・適切な身体診察法ができる。・診察内容から、適切な治療計画（治療方針・処方例）を立て説明できる。・治療を実施できる。POSに基づいて診療録の作成ができる。臨床でよく遭遇する内科系症候に対して模擬患者施術を行うために以下の事ができる。・東洋医学的な医療面接ができる。・基礎的な四診法（特に舌診、腹診、脈診）ができる。・病証の推定から、原穴を用いた治療ができる。</p>	2	72	2			○	○			○		

38	○			<p>はりきゅう応用実技Ⅰ</p>	<p>[授業概要] 臨床経験を活かした実技授業を展開する。東洋医学的な治療が行えるように能力の向上を図る。そのために、必要な四診（診察）能力、証の推定、治療を組み立てる能力を養う。またそれに則し、全身的な鍼灸治療を行う。その他、特殊鍼法の意義、方法を学ぶ。 [一般目標(G10)] ・東洋医学的な考えを基に、鍼灸治療を行う事ができる。・特殊鍼法が実施できる。・2点連続施灸ができる。 [到達目標(SBOs)] ・四診法（舌診、脈診基礎、腹診、背候診、切経）ができる。・証の決定、治療方針、選穴を考える事ができる。・失眠穴への2点5壮/2分を正確にできる。・特殊な鍼灸治療（灸頭鍼、小児鍼、皮内針、隔物灸、良導絡、耳鍼法）について説明および実施ができる。</p>	3	72	2				○	○			○	○
39	○			<p>はりきゅう応用実技Ⅱ</p>	<p>[授業概要] 治療経験を活かしより臨床に即した実技授業を展開する。2年の臨床実技で行われた臨床で良く遭遇する4疾患に対する治療を深めるために、代表的な筋を対象にパルス治療器を用いて、正確にアプローチできるよう練習を行う。さらに応用実技としてスポーツ鍼灸、特殊鍼法を理解し実施できる能力を養う。 [一般目標(G10)] ・健康医学、産業医学について説明、鍼灸治療を行う事ができる。・整形外科的な代表4疾患に対する治療ができる。・代表的な筋を対象にパルス通電療法ができる。 ・スポーツ傷害の対処法、鍼灸治療ができる。・特殊鍼法が実施できる。 [到達目標(SBOs)] ・健康医学、産業医学について説明および鍼灸治療を行う事ができる。 ・代表的な筋に対して、正確な刺鍼ができる。 ・整形外科的な代表4疾患に対する治療ができる。 ・鍼通電療法を正確に行う事ができる。 ・スポーツ傷害に対するRICE処置ができる。 ・各スポーツ傷害について説明および鍼灸治療ができる。 ・現代医学的な考え方にに基づき、一連の鍼灸治療を行う事ができる。</p>	3	72	2				○	○		○		

40	○			臨床実習 I	<p>[授業概要] 鍼灸科附属施術所において、患者体験、臨床見学を通して鍼灸治療の実際に触れ、はり師・きゅう師としての将来像をイメージさせる事で、何を学び何を必要とされるのかを理解する。また、スポーツの現場や介護施設、病院など将来関連すると考えられる臨床現場を見学する事で、医療人として幅広い視野を育てるとともに、はり師・きゅう師としての役割や将来像を主体性をもって考える機会を与える。</p> <p>[一般目標(GIO)] 患者体験、臨床見学を通して、鍼灸の効果や患者対応などの臨床の実際を認識することで、医療人としての倫理観や臨床能力(知識・技術・態度)の必要性について理解する。また、鍼灸医学を学ぶ学生としての自覚、日頃の授業の大切さ、取り組みに対する意識の向上を図ることを目的とする。また、医療関連施設などを見学することで幅広い視野をもって、はり師・きゅう師としての将来像をイメージする力を身につける。</p> <p>[到達目標(SBOs)] ・医療人としてふさわしい身なり、衛生概念が身についている。 ・患者、研修生、指導者に対して挨拶・自己紹介ができる。 ・研修生・指導者の指示に従い適切な言動ができる。 ・臨床実習施設における鍼灸施術の流れを理解することができる。 ・課題レポートを適切に書くことができる。 ・2年、3年の臨床実習を見学し、学内での到達目標を理解することができる。 ・臨地見学実習にて、指導員や患者に対し挨拶・自己紹介ができる。 ・臨地見学実習にて、臨床現場の指導員の指示に従う事ができる。 ・臨地見学実習にて、臨床現場で体感し理解を深めた事をレポートにまとめる事ができる。</p>	1	45	1			○	○	○	○			
				臨床実習 II	<p>[到達目標(SBOs)] ・医療人としてふさわしい身なり、衛生概念が身についている。 ・患者、研修生、指導者に対して挨拶・自己紹介ができる。 ・研修生・指導者の指示に従い適切な言動ができる。 ・臨床実習施設における鍼灸施術の流れを理解することができる。 ・教員の指示の下、適切な医療面接(質問法、傾聴、共感)を行う事ができる。 ・教員の指導の下、適切な身体診察(特に、血圧測定・脈拍確認、徒手検査法)を行う事ができる。 ・診察所見から、グループ内協議で病態の推定、治療方針の決定、選穴ができる。 ・治療後、効果の判定を正確に診る事ができる。 ・治療後の振り返りで、不足点、改善点などを明記できる。 ・S.O.A.P.に従って適切な診療録が記載できる。 ・施術所業務を円滑に行う事ができる。 ・臨地見学実習にて、指導者や患者に対し挨拶・自己紹介ができる。 ・臨地見学実習にて、臨床現場の指導員の指示に従う事ができる。 ・臨地見学実習にて、臨床現場で体感し理解を深めた事をレポートにまとめる事ができる。</p>		45	1			○	○	○	○			

41	○		臨床実習Ⅱ	<p>[到達目標(SBOs)]・医療人としてふさわしい身なり、衛生概念が身についている。 ・患者、研修生、指導者に対して挨拶・自己紹介ができる、 ・研修生・指導者の指示に従い適切な言動ができる。 ・臨床実習施設における鍼灸施術の流れを理解することができる。 ・教員の指示の下、適切な医療面接(質問法、傾聴、共感)を行う事ができる。 ・教員の指導の下、適切な身体診察(特に、血圧測定・脈拍確認、徒手検査法)を行う事ができる。 ・診察所見から、グループ内協議で病態の推定、治療方針の決定、選穴ができる。 ・治療後、効果の判定を正確に診る事ができる。 ・治療後の振り返りで、不足点、改善点などを明記できる。 ・S.O.A.P.に従って適切な診療録が記載できる。 ・施術所業務を円滑に行う事ができる。 ・臨地見学実習にて、指導者や患者に対し挨拶・自己紹介ができる。 ・臨地見学実習にて、臨床現場の指導員の指示に従う事ができる。 ・臨地見学実習にて、臨床現場で体感し理解を深めた事をレポートにまとめる事ができる。</p>	2	45	1			○	○	○	○			
42	○		臨床実習Ⅲ	<p>[授業概要] ・臨床実習Ⅲでは、附属施術所に通所されている1人の患者に対し、数人のグループで4回の継続治療を学生が主体となり行うことで、病態の変化を経過観察し、改善点などの振り返りを行うとともに、症例報告書を作成しグループ毎に症例発表を行う。 後期には、卒業に向け一人で一連の鍼灸施術を行うことで個々の不足点を確認、改善を図るとともに、鍼灸治療の難しさや鍼灸師としての責任感を再確認することを目的に行う。 [一般目標(GIO)] 臨床実習Ⅲでは臨床実践を通して、診察内容から病態の推定、治療方針の立案、選穴、施鍼、施灸など一連の鍼灸施術を一人で行うことができることを目標とする。 治療の振り返りにて、個々の未熟な点について気づきを促し、今後の自主的な能力向上に努める姿勢を育成する。 [到達目標(SBOs)] ・医療人としてふさわしい身なり、衛生概念が身についている。 ・患者、研修生、指導者に対して挨拶・自己紹介ができる。 ・研修生・指導者の指示に従い適切な言動ができる。 ・臨床実習施設における鍼灸施術の流れを理解することができる。 ・教員の指示の下、適切な医療面接(質問法、傾聴、共感)を行う事ができる。 ・教員の指導の下、適切な身体診察(特に、血圧測定・脈拍確認、徒手検査法)を行う事ができる。 ・診察所見から、一人で病態の推定、治療方針の決定、選穴ができる。 ・治療後、効果の判定を正確に診る事ができる。 ・治療後の振り返りで、良かった点、不足点、改善点などを明記できる。 ・S.O.A.P.に従って適切な診療録が記載できる。</p>	3	45	1			○	○					

43	○		臨床実習Ⅳ	<p>[授業概要] ・臨床実習Ⅳは臨地実習であり、鍼灸を行って る実習認定施設の臨床現場に於いて実習を行 うものである。 [一般目標(GIO)] 臨地実習先の指導員の指示に従い臨床の実際 を見学・参加することで、学内で行ってきた実 技や臨床実習の内容との違いなどを体感する ことで、実際の臨床の難しさや厳しさなどを認 識することを目標とする。 [到達目標(SBOs)] ・医療人としてふさわしい身なり、衛生概念が 身についている。・患者、指導者に対して挨拶・ 自己紹介ができる。・指導者の指示に従い適切 な言動ができる。・臨地実習施設の鍼灸施術の 流れを理解し、適切に行動することができる。・ 臨地実習施設のスタッフや患者と適切なコミュ ニケーションをとる事ができる。・指導者に対し、適切 な報告、連絡、相談ができた。・指導者の指導を 素直に受け入れる事ができる。・能動的な姿勢 で実習に取り組む事ができる。・指導者の施術 内容を理解する事ができる。</p>	3	45	1			○	○	○			
44	○		医学準備教育	<p>[授業概要] ・鍼灸教育を受けるにあたり必要な基礎知識で ある生物学、化学の基本事項について解説す る。・鍼、および灸の歴史について解説する。・医 療職として患者の支援を行うために必要とな る、コミュニケーションおよびマナーについて、基本事項を 解説し、演習やアクティブラーニングを交えながら、実 践できるように促す。・医療倫理、およびはり 師、きゅう師にひつような職業倫理について解 説する。・東洋医学を理解する上で必要な、あは きの歴史について日本、中国、諸外国を年代順 に学習する。 [一般目標(GIO)] ・解剖学、生理学など専門基礎分野を理解する ための基礎となる生物学事項を理解する。・鍼 と灸の起こりと、その変遷を理解する。・はり 師、およびきゅう師として患者の支援を行うた めに必要なコミュニケーションの基本を理解する。・医療 専門職としてのマナーを理解する。・医療倫理、は り師、およびきゅう師としての職業倫理を理解 する。・演習およびアクティブラーニングを通して、はり 師、およびきゅう師に必要なコミュニケーション技法を 実践・応用する。・はきの歴史を日本と中国、韓 国、アメリカ、ヨーロッパと国別、年代別に理解すると ともに各国の関連性を理解し説明することがで きる。 [到達目標(SBOs)]・科学的知識の基礎となる主 要な単位を理解し、説明することができる。・原 子の周期表と主要な元素記号を理解し、説明す ることができる。・イオンについて概略を説明す ることができる。・ATPとエネルギー代謝の概略に ついて説明することができる。・はり師および きゅう師としての職業倫理とマナーを理解し、適 切なコミュニケーションを取りながら患者支援につなげ ることができる。・古代中国から現代中国での はきの歴史的变化を理解し説明できる。日本に おけるはきの歴史を理解し説明することがで きる。・諸外国でのはきの歴史と関連性を理解 し説明することができる。</p>	1	48	2			○				○	

45	○			研究基礎	<p>[授業概要] ・研究の意義と研究の基礎知識を学ぶために、研究の基礎知識、文献検索方法、データ分析などについて学び、全体を通して実際に研究を行ない発表する。 [一般目標(GIO)] ・研究の意義・目的、研究方法、研究の一連のプロセスについて理解する。・鍼灸に関する先行研究について、検索方法(和文・英文)を学び、検索力を身につける。・鍼灸に関する研究を行い、研究発表を行うまでの知識を習得できるようになる。 [到達目標(SBOs)] ・研究の基礎とプロセスについて学び、研究の意義と目的を把握することができる。・研究の手順を理解し組み立てを行うことができる。・和文・英文文献の検索方法を理解し、先行文献の検索を行うことができる。・鍼灸に関する研究の資料収集、分析・統計解析、論文作成などの実践を通して学ぶことができる。</p>	2	24	1				○		○			
46	○			災害と鍼灸・開業支援	<p>[授業概要] ・災害発生のリスクと災害時に鍼灸の行える支援活動内容を説明する。・被災地での状況を想定し、医療チームの一員として他職種連携のと相互関係を説明する。・被災地において鍼灸の有効性と被災者への理解を深めさせる。・施術所開設時に必要な法令などの知識および療養費の取り扱いなどについて実務的に解説する。 [一般目標(GIO)] ・鍼灸師のボランティア支援活動内容を理解する。・災害発生時の被災地の状況を想定し、鍼灸師の現場での役割を理解する。・他職種連携を認識し、医療チームの一員として被災者支援を理解する。・施術所開設時における関係法規と手続きを理解する。・施術所の開設と運営に必要な広告の知識について理解する。・施術所の運営に必要な税務について理解する。・鍼灸および灸の施術にかかる療養費の取り扱いの概要を理解する。 [到達目標(SBOs)] ・今後の災害発生リスクを考慮して、被災地における鍼灸師としての役割を説明することができる。・被災地の状況を想定して、限られた環境において適切に鍼灸支援を行うことができる。・医療人として被災者への理解を深め、被災者支援に参加することができる。・他の医療チームを理解し、その一員として他職種連携を行うための鍼灸師としての役割を説明することができる。・実際の現場を想定し、変化しうる状況の中で臨機応変に判断して被災者支援を行うことができる。・施術所の開設および業務の開始に要する法令を説明することができる。・施術所の運営上、行うことが想定される広告の種類を説明することができる。・施術所の開設と同時に税務署への届け出が必要なことや、確定申告などの税務を担うことを説明できる。・療養費制度の概要、およびその運用方法の概要を理解し、療養費申請書類を作成することができる。</p>	2	24	1				○		○			

47	○	はき総合学	<p>[授業概要]</p> <p>・鍼灸師として必要な基礎知識の定着を確認する。・1年次から3年次で学んだ内容を臨床の場で活用できる力がついているかを確認する。</p> <p>[一般目標(GIO)]</p> <p>・はき治療で遭遇する頻度の高い疾患について、鑑別、適不適の判断、治療方針を立てることができるかを確認する。</p> <p>[到達目標(SBOs)]</p> <p>次の点について、演習問題の形で解答することができる。・鍼灸師に必要な、人体の解剖と生理。・鍼灸師に必要な、東洋医学的基礎知識。・鍼灸師に必要な、疾病の成り立ち。・施術に必要な衛生的概念。・具体的な症例から鍼灸の適応・不適応の判断。・具体的な症例に対し、現代医学的な考え方に基づく治療方針。・具体的な証例に対し、東洋医学的な考え方に基づく治療方針。・治療方針に即した治療穴の選穴。・患者に対して適切な生活指導。・疾病予防のための知識。</p>	3	240	10				○	○		
合計			49科目	2670単位時間(105単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
進級及び卒業の認定は、学業成績及び単位の修得並びに出欠状況等により教務会の議を経て校長が決定する。	1学年の学期区分	3期
	1学期の授業期間	12週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。